

【対象者数の推移】

平成23年度調査 ⇒ 対象者数 16,001人
 平成24年度調査 ⇒ 対象者数 14,516人
 平成25年度調査 ⇒ 対象者数 15,218人 (平成24年度より702人増)

➡ 福島県内で妊娠される方が、一時減少したものの、平成25年度は前年度より増加しました。

【早産・低出生体重児、先天奇形の発生率】

%	早産	低出生体重児	先天奇形 先天異常発生
平成23年度	4.75 (5.7)	8.9 (9.6)	2.85
平成24年度	5.74 (5.7)	9.6 (9.6)	2.39 (3~5)
平成25年度	5.40 (5.8)	9.9 (9.6)	2.35

() 内について：早産、低出生体重児については各年度の人口動態統計における割合及び発生率。先天奇形・先天異常発生については一般的な発生率。

➡ 早産・低出生体重児・先天奇形の発生率は、平成23～25年度調査の結果では、政府統計や一般的に報告されているデータとはほとんど差がないことがわかりました。

第18回福島県「県民健康管理調査」検討委員会資料より作成

対象者の数は、そのまま福島県での新たな妊娠・出産数となります。震災後、一時的に福島県における出産数は減少しましたが、2013（平成25）年度は2012（平成24）年度と比べて増加しました。

また、放射線などの新生児への影響が心配されましたが、震災後、福島県内における早産率、低出生体重児率、先天奇形発生率などは、全国的に一般的に報告されている割合や政府統計の数値と差がないことがわかっています。

本資料への収録日：2015年3月31日

関連 Q&A

- ・2章 QA41 事故当時妊娠していました。放射線の影響はありませんか
- ・2章 QA42 結婚したばかりですが、これからの出産に問題はありませんか
- ・2章 QA43 事故直後、母乳で子育てをしていたのですが、大丈夫だったのですか
- ・6章 QA78 震災後生まれた子どもが甲状腺がんになるのではないかと心配です
- ・6章 QA79 震災後生まれた子どもが心室中隔欠損症（VSD）でした。放射線の影響でしょうか
- ・6章 QA80 放射線の影響で二分脊椎裂、無脳児などが生まれるのでしょうか
- ・6章 QA81 「受精直後にたくさん被ばくする」と「たくさん被ばくした卵子で妊娠する」のにリスクの差はあるのでしょうか